

VOICE

事業部 コンサルタント

永石 諒 さん
Nagaishi Ryo

持っている資格

JUAVAC認定 UAVフライト技術
(ドローン操縦の民間資格)
Esri ArcGIS Pro Foundation 2101
(地理情報システムの民間資格)

専門分野

自然資源管理、GIS、ドローン操縦



1日のスケジュール

8:30

業務開始

現地のプロジェクトスタッフ
とフィールドワーク前の事前
打ち合わせ

10:30

フィールドワークに移動
数時間で行けるフィールド
もあるが、移動だけで半日
以上かかる事業地も

13:00

研修実施のサポート

地域の人や難民に向けて自
然資源の管理やカマドづく
りの研修などを実施

16:30

活動の振り返り

研修や現場の進捗を確認
し、課題や今後のスケジュ
ールを団内で共有・協議。移
動中の車内で行うことも

17:30

業務終了

Career Path

32 歳

JIN へ入社。インドネシアのマング
ローブ調査やマラウイの農村電化な
ど、JICA(国際協力機構)のさまざま
な事業に携わり、プロジェクトの動
かし方を基礎から学ぶ

29 歳

環境分野やヘルスサイエンス事業な
どを手がけるコンサルティング企業
「Ramboll(ランボル)」のドイツオ
フィスで勤務。インターン含め3年
間、「外国人」として働く

26 歳

ドイツのミュンヘン工科大学で環境
政策や資源管理について研究し、修
士号を取得。それまでは日本の環境
NGOでSDGsの普及・促進や政策
提言などに従事

現在の仕事

西ナイル地域の自然と平和を守る

ウガンダ北西部の自然資源管理プロジェクトに携わっています。
隣国から多くの難民を受け入れている西ナイル地域では、薪の採
取と森林の減少が課題。そこで、成長の早い木を植えたり、効
率的に火を燃やせるカマドづくりの研修を実施したり、地域の資
源を守りながら住民と難民が共存できるよう支援しています。

国際協力業界を選んだきっかけ

ケニアのスラムで受けた衝撃が原体験に

高校の先生にすすめられた『環境倫理学のすすめ』という本を
読んで人間と自然との関係性について考えるようになり、理系か
ら“文転”。大学では環境倫理を学びました。特に国際協力を意
識していたわけではないですが、学生時代に訪れたケニアでのス
ラムの人々との交流も現在の仕事につながるきっかけの1つです。

会社の魅力

風通しの良いオープンな社風

オープンな社風を面接時から感じましたが、実際にその通りです。
年齢や役職の垣根を越え、時間を惜しまずに若手の話を聞いて
くれて、フラットに意見を交わし合える雰囲気的魅力です。1年
目から現地業務を任せられ、高いレベルを求めてくれるので、周
圍の方々の熱意に応えたいと思いつつ働いています。

専門性の見つけ方・磨き方

学生時代の学びも現場で生きる

自然資源管理の分野における専門性を、現場経験を踏まえなが
ら深めていきたいです。入社後に担当したプロジェクトでは、留
学先の米国で学んだGIS(地理情報システム)の専門性が役立
ちました。学生時代から、常に現場で学び、わからないことは
臆せず誰かに聞くようにしています。

学生のうちにやっておくべきこと

多様な実地経験が安心材料になる

学生時代は理系や文系の枠にこだわらず、さまざまなことに挑戦
してください。多様な実地経験こそが、将来の糧になると思いま
す。仕事では「やりながら学ぶ」とよく言われますが、実際に現
場で身につくことは多いです。同じように、学生時代の経験や挑
戦は、必ず自信や実力につながると思います。

株式会社 JIN

途上国の人々と共に。受け継がれる現場主義のDNA



ウガンダ北西部の自然資源管理プロジェクトの現地スタッフたちと

INFO

設立	2011年2月
社員	29人(2026年6月現在)
本社	〒330-0844 埼玉県さいたま市 大宮区下町1-42-2
Tel	048-650-0400



現地の人々の役に立ちたい。でも、自分がで
きるだろう。国際協力の業界に就職を考える人の中
には、そう悩む方も多いのではないだろうか。
JINは、そんな悩みと真剣に向き合える場所だ。
2026年に設立15周年を迎えた同社は、おもに南
スーダン・ウガンダ北部・ソマリアなどの地域で技
術協力プロジェクトを実施してきた。農業・農村開
発を軸に、生計向上や平和構築、栄養改善、スポー
ツと開発、ジェンダー、自然資源管理などの分野を
得意とする。昨年にはザンビアの難民支援やフィリ
ピンの母子保健のプロジェクトも始まった。

「質」の高い国際協力を目指して

同社が大切にしているのは、開発途上国の人々の
笑顔と幸せにつながる「質」の高いサービスの提供
だ。この「質」について深く考えるには、現地の人
の声に基づく事実が出发点となる。野菜栽培なら
1つの農家が何株のトマトを植え、1個のトマトを
いくらで売り、その収入を何に使うのか。これらを
1つずつ確かめながら、現地に届くサービスを最大
化する方法を、知恵を持ち寄り形にしている。
そのために、同社はチームづくりを大切にしてい
る。設立時は4人だった社員は15年で29人に増えた。
若手社員は管理職やシニアとの風通しの良さが魅力
と語る。国際協力の未来の担い手を育てるため、若
手の採用・育成にも積極的で、事業部25人のうち
35歳以下が7人を占める。社員の学びも重視し、若
手の現地業務を社の「持ち出し」で行うこともある。
海外出張の多いハードな仕事だが、長く働けるよう
に、福利厚生にも力を入れている。有給休暇の直近
3年間の取得率は全社平均で85%を超える。

今年5月には代表交代があり、バトンが次世代に
引き継がれた。会社としても、転機を迎えているが、
根本にある現場主義は変わらない。代表取締役役に新
しく就任した山下愛氏は「途上国の人々と同じ目
線に立った国際協力を受け継いでいきたい」と語る。
不安定さを増す世界で、今こそ求められる「質」
の高い国際協力に、JINは全員で取り組んでいく。

Recruit

採用担当の声

Voice

途上国と共に歩む仲間を募集中

採用では、経歴や専門性と同じくらいに、国際協力の
仕事に向き合う姿勢や価値観を重視しています。
例えば、途上国の人々と向き合う時に、住民と同じ
目線と一緒に考え、対話を積み重ねて、信頼関係を
築くことができるような人材です。
「途上国の課題解決のために何をすべきか。その上で、
今の自分に何ができて、何が足りないのか」を真剣
に考え、プロジェクトチームのメンバーや、現地のカ
ウンターパートと共に真摯に努力を積み重ねることが
できる方の応募をお待ちしています。



経営企画部 次長

會田 祥一 さん
Aita Shoichi

求める人物像

・途上国の人々を尊重し信頼を築ける方
・チームワークや対面交流を重視する方

必要な能力や歓迎する資格

TOEIC800点以上の英語力は必須。資
格や能力については、有する方も目指し
ている方も「途上国のためにどう生かす
のか」という明確なビジョンも評価する。